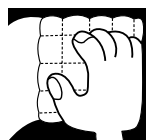
パワード　サブウーファー

取扱説明書

S-W6

Pioneer

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

お手入れについて

柔らかい布で乾拭きしてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。

とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

サブウーファーご使用時のエチケット

サブウーファーは耳に聞こえにくい超低域振動音を再生しています。振動音は壁や床を通して漏れていきますので、音量には充分気を配ってください。

安全上のご注意　付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

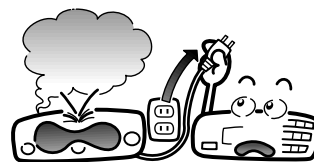
●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

安全上のご注意

⚠警告

〔異常時の処置〕

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

⚠注意

● 機器本体の電源スイッチを切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ(遮断装置)に容易に手が届くように設置してください。

プラグを抜け

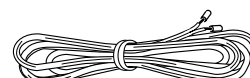
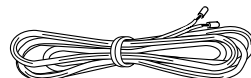
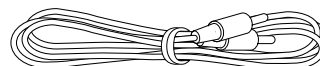
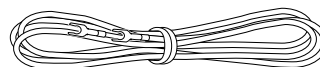
特　長

■ダイナミックレンジの大きいドルビーデジタル*などの映画ソフト再生に追従する200Wのハイパワー。
■PWM方式による高効率D級アンプを搭載。
■ターンオーバー周波数連続可変(50～150Hz)。
■位相切換スイッチ（0°/180°）。
■入力信号がない時間が約9分間あると、自動的に出力アンプをオフ（スタンバイ状態）にする、オートパワーオフ機能。
■アンプのスピーカー端子に接続する入力と、サブウーファー用プリアウト端子に接続する入力の2系統。
■25 cmウーファーとパッシブラジエーターによる迫力の重低音。
■2台目も簡単に接続できる、LINE LEVEL OUTPUT端子付き。
■DVDオーディオ対応のフィルタースルースイッチ付き

＊ DOLBY、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

ご使用の前に

付属品の確認

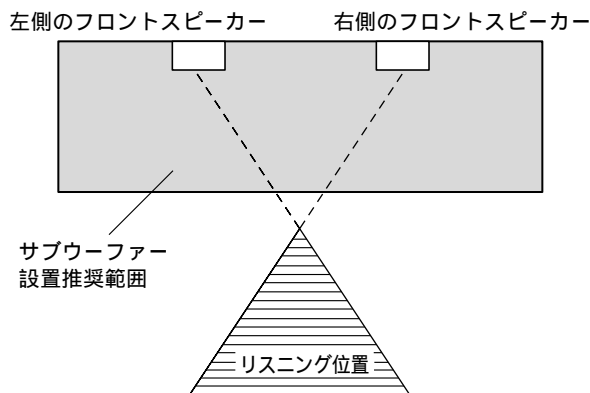
● スピーカーコード　X2

● RCAピンコード　X1

● アースコード　X1

● 取扱説明書（本書）　X1
● 安全上のご注意　X1
● 保証書　X1
● ご相談窓口・修理窓口のご案内　X1

設置

スピーカーの設置

サブウーファーは、人間の耳が低音域において方向感覚が無くなることを利用し、重低音をモノラルで再生します。方向感覚が無くなるため、設置場所は、かなり自由になりますが、あまり離れた場所に置くと左右のスピーカーとの音のつながりが不自然になる場合があります。

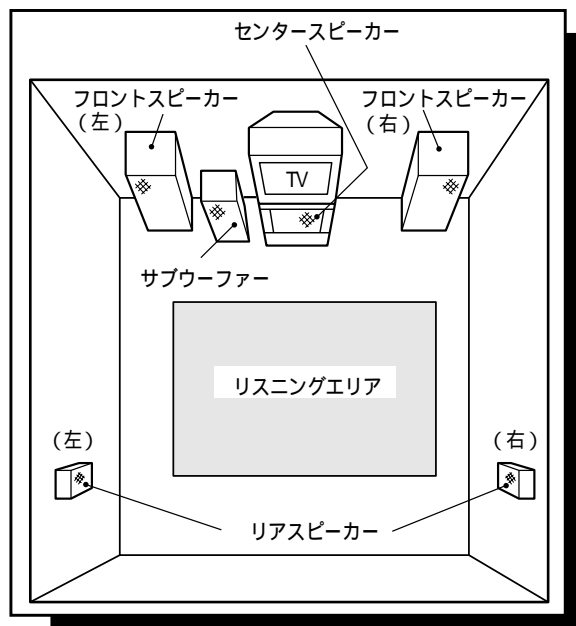
左側のフロントスピーカー　右側のフロントスピーカー

サブウーファー
設置推奨範囲

リスニング位置

サブウーファーは重低音域で指向性が付くように設計されておりますので、サブウーファー正面をリスニング位置に向けてください。外部への音漏れ対策としてもおすすめします。

サラウンド効果を最大限に発揮させるため、下図のようなスピーカーの設置をおすすめします。

【設置例】

センタースピーカー
フロントスピーカー（左）
フロントスピーカー（右）
TV
サブウーファー
リスニングエリア
（左）
（右）
リアスピーカー

- テレビの近くに設置するスピーカーは防磁型のものをお使いください。
- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- リア（サラウンド）スピーカーはリスナーの真横または少し後方で、耳の位置から約1m位上方に水平方向に設置すると効果的です。

設置上の注意

本機を設置する場合は、放熱を良くするため他の機器や壁などから十分な間隔をとってください(天面２５ｃｍ以上、後面10cm以上、右側、左側各10cm以上)。また前側より5cm以上奥に押し込まないでください。本機と壁および他の機器との間隔がとれないと、内部に熱がこもり、性能不良または故障の原因になります。

■　スピーカーの上には物をのせないでください。

次のような場所には設置しないでください

■　直射日光を受けたりする場所、暖房器具に近い場所。
■　風通しが悪く、湿気やホコリの多い場所。
■　振動や傾斜のある、不安定な場所。
■　アルコール類やスプレー式の殺虫剤など、引火性のものを使用する場所。
■　カセットデッキなど、磁界に影響される機器のそば。

ご注意

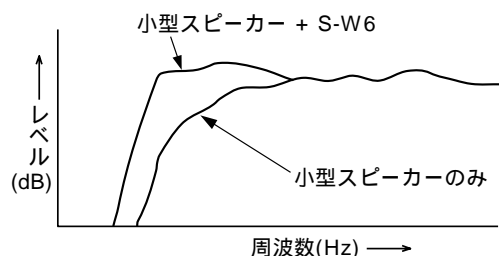
●本機は低磁気漏洩設計ですのでテレビに近づけて使用できますが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能より、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをテレビからさらに離してご使用ください。
●近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

チューナーのアンテナケーブルから離して設置してください

近くに置いた場合に雑音が出ることがあります。このようなときはアンテナやアンテナケーブルから本機を離してご使用になるか、やむを得ない場合は本機の電源を切ってください。

スピーカーシステムとの組み合せ

- S-W6を小型スピーカーシステムと組み合せると、下図の様な特性が得られ、低音域が増強されます。

小型スピーカー + S-W6
レベル(dB)
小型スピーカーのみ
周波数(Hz)

- ドルビーデジタル*の再生においては、サブウーファーの専用再生チャンネルの設定を推奨しており、特にＬＦＥ（Ｌｏｗ Frequency Effect=映画などの迫力を増すための地鳴りの様な効果音）の再生に対してS-W6は有効です。

＊ドルビーデジタルについて

ドルビーデジタルは、ドルビーサラウンドからドルビープロロジックサラウンドと継続して発展してきたドルビーサラウンドのマルチチャンネル、デジタルシステムの名称です。
ドルビーデジタルは5.1チャンネルシステムとも呼ばれます。20Hz～20kHzまでの周波数範囲を持つ5チャンネル（フロント左、右、センター、リア左、右）と、独立したサブウーファー用チャンネルを持っているためです。サブウーファー用チャンネルは、LFE(Low Frequency Effect)とも呼ばれています。
LFEチャンネルは、迫力ある低音を楽しみたいときに好みに合わせて使用するチャンネルとしています。

接続のしかた

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

- すべての接続が終ってから、コンセントを接続してください。

A

S-W6（後面パネル）

アンプ

SUB WOOFER PREOUT

付属のRCAピンコード

INPUT OUTPUT
LINE LEVEL

PHASE
0°
180°

TURN OVER
FILTER THROUGH
OFF
ON
50 100 150
Hz

LEVEL
MIN MAX

B

アンプのスピーカー端子

R L

スピーカーコード

右スピーカーシステムへ

左スピーカーシステムへ

⊖

⊕

スピーカーコード

S-W6

R L

SPEAKER LEVEL

① ② ③ ④

アンプ

右スピーカーシステム

左スピーカーシステム

S-W6

電源コード

ACコンセントへ

C

アンプのスピーカー端子

スピーカーコードを1つの端子に2本ずつ接続する

右スピーカーシステムへ ⊕ ⊖

⊕ ⊖ 左スピーカーシステムへ

スピーカーコード

S-W6

R L

SPEAKER LEVEL

① ② ③ ④

アンプ

右スピーカーシステム

左スピーカーシステム

S-W6

電源コード

ACコンセントへ

ラインレベルの接続（図 A）

アンプにサブウーファー用のプリアウト端子がある場合の接続です（この端子が無い場合は「スピーカーレベルの接続」を参照してください）。
付属のRCAピンコードで、本機のLINE LEVEL INPUT端子と接続します。
LINE LEVEL OUTPUT端子が付いているので2台以上のパワードサブウーファーを接続することができます。この時フェーズスイッチの位置を合わせてください。

ご注意

アンプの、サラウンド・センターチャンネル用のプリアウト端子と接続すると、センターチャンネルのみの低音となり、十分な低音が得られません。

スピーカーレベルの接続（図 B、C）

アンプのスピーカー端子を使う接続です。

ご注意

- 本機の電源を切る前に、アンプの電源を切るとショック音を発生することがあります。その時はサブウーファーの音量を下げるか、本機の電源を切ってください。または、アンプに電源スイッチ連動コンセントがある場合は本機の電源コードを接続してください。
- 「スピーカーレベルの接続」では、サブウーファーの音量を非常に大きく設定した場合、アンプの電源を切ったり、スピーカースイッチをオフにするとハウリングを起こすことがあります。これを防止するには、本機の電源コードをアンプの電源スイッチ連動コンセントに接続してください。連動コンセントが無い場合は、サブウーファーの音量を下げるか、アンプの電源を切る前に、本機の電源を切ってください。また、本機を大音量で使用しているときアンプのスピーカースイッチをオフにしないでください。
- アンプ側で低音を増強するのは避けてください。アンプの出力に余裕がないと、音が歪みやすくなります。低音は本機で調節してください。
- LINE LEVEL INPUT端子を接続すると、SPEAKER LEVEL INPUT端子は使用できません。

スピーカーレベルの接続には2通りの方法があります。

方法1（図 B）

アンプのスピーカー端子と左右のスピーカーの接続の間に本機を入れる方法です。

1. 本機のSPEAKER LEVEL INPUT端子とアンプのスピーカー端子を付属のスピーカーコードまたはお手持ちのスピーカーコードで接続します。

- L (+)、L (−)、R (+)、R (−)の表示に合わせて接続してください。

2. 本機のSPEAKER LEVEL OUTPUT端子と左右のスピーカーシステムの端子を付属のスピーカーコードまたはお手持ちのスピーカーコードで接続します。

- L (+)、L (−)、R (+)、R (−)の表示に合わせて接続してください。

方法2（図 C）

アンプのスピーカー端子に左右のスピーカーの接続と同時に本機を接続する方法です。

1. 左右のスピーカーシステムからのスピーカーコードと本機に付属のスピーカーコードの一端の芯線をたばね、アンプのスピーカー端子に接続します。

2. 付属のスピーカーコードの両端を本機のSPEAKER LEVEL INPUT端子と接続します。

- L (+)、L (−)、R (+)、R (−)の表示に合わせて接続してください。
- 本機のSPEAKER LEVEL OUTPUT端子は使用しません。

ご注意

アンプに2組のスピーカー端子(A, B)がある場合、本機を空いている端子に接続して、スピーカースイッチで“A + B”を選択する方法があります。ただし、使用するアンプによっては左右のスピーカーから音が出なくなることがあります（スピーカースイッチで“A + B”を選択したとき、AとBが直列接続になる構造のアンプの場合）。

シグナルグランド端子の接続

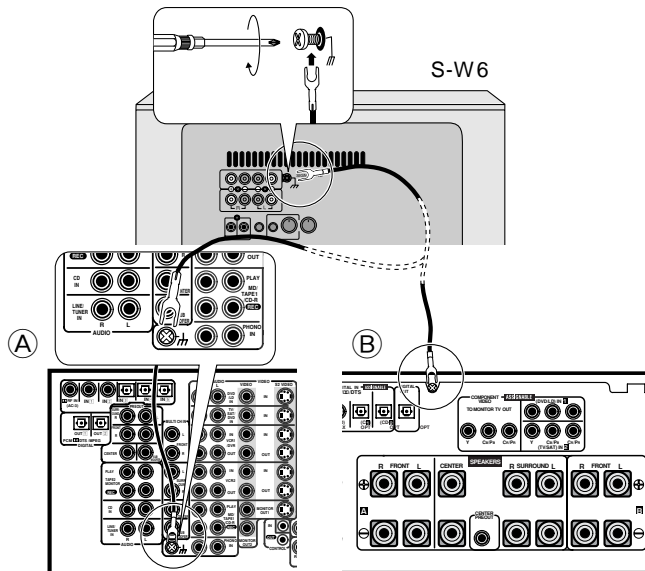
LINE LEVEL INPUT端子と接続して使用する場合は、アースコードの接続はしないでください。

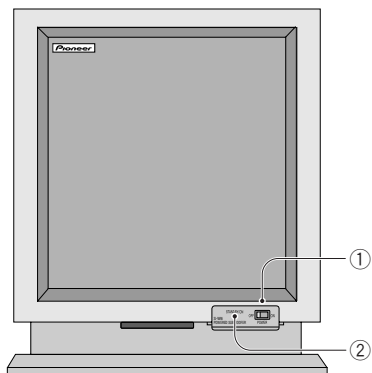
■ スピーカー端子と接続して使用した際にハム音(ブーンとうなるような音)が出る場合には図Ⓐのように本機のシグナルグランド端子とレシーバー/アンプを、付属のアースコードで接続してください。

■ レシーバー/アンプ側にアース端子(GND)がない場合は、図Ⓑのようにレシーバー/アンプ背面(リアパネル)の、トップカバーを取り付けているネジをご利用ください。

S-W6

Ⓐ

Ⓑ

各部の名称と使い方

前面パネル

① **パワースイッチ(POWER)**
スイッチを右に倒すと電源がオンし、左へ倒すとオフします。

② **スタンバイ/パワーオンインジケーター(STANDBY/ ON)**
電源がオンするとパワーオンインジケーター(緑)が点灯します。
オートパワーオフ（スタンバイ状態）のときはスタンバイインジケーター(赤)が点灯します。

- オートパワーオフ機能
入力信号が無い状態で約9分間が経過すると、アンプ部が自動的にスタンバイ状態になって節電します。信号が入るとすぐにオンになります。

③ **フェーズスイッチ(PHASE ■0° / ▂180°)**
押し込むと(▂180°)入力信号に対し出力の位相を逆にします。押し戻すと(■0°)同位相になります。

- 通常は■0° で使用しますが、サブウーファーと左右スピーカーの音のつながりが不自然に聞こえる場合に切り換えてみて、自然に聞こえる方に設定してください。

④ **ラインレベルアウトプット端子**
(LINE LEVEL OUTPUT)
本機を経由して、他の機器に接続するときに使用します。

⑤ **ラインレベルインプット端子**
(LINE LEVEL INPUT)
サブウーファー用のプリアウト端子付のアンプと、付属のRCAピンコードで接続します。

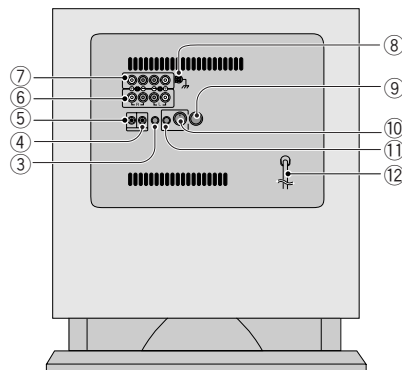
⑥ **スピーカーレベルインプット端子**
(SPEAKER LEVEL INPUT)
アンプのスピーカー出力端子と、付属のスピーカーコードで接続します。

⑦ **スピーカーレベルアウトプット端子**
(SPEAKER LEVEL OUTPUT)
アンプのスピーカー出力端子を本機のスピーカーレベルインプット端子（⑥）に接続して本機の入力信号とする場合、左右のスピーカーを本機を経由して接続するときは、ここから接続します。

⑧ **シグナルグランド端子**
5ページの“ シグナルグランド端子の接続 ” をお読みください。

⑨ **レベルつまみ(LEVEL)**
サブウーファーの音量を設定します。

- 最小(MIN)位置からゆっくりと回してください。
- 本機は独自に重低音のレベルを設定できますので、ステレオアンプ側で低音の増強をしないでください。

後面パネル

⑩ **ターンオーバーつまみ(TURNOVER)**
サブウーファーで再生する周波数の上限を設定します。

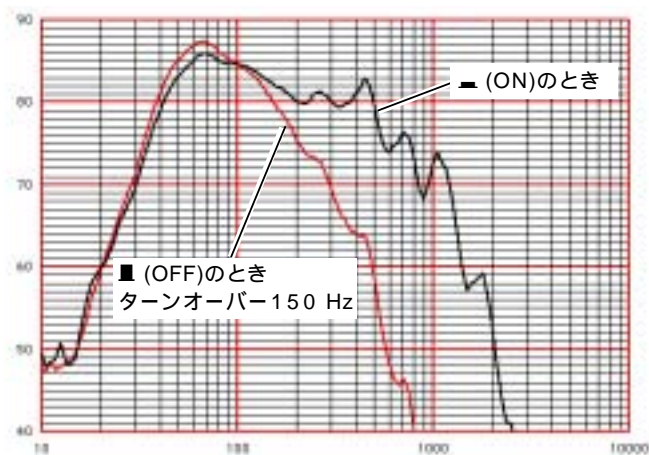
- 設定の目安

50Hz　左右スピーカーの口径が20センチ以上の場合。
100Hz　左右スピーカーの口径が10～25センチの場合。
150Hz　左右スピーカーの口径が12センチ以下の場合。

⑪ **フィルタースルースイッチ**
(ターンオーバーつまみ横のプッシュスイッチ)

- 設定の目安

■ OFF：通常のサブウーファーとしてご使用のとき
(ターンオーバーつまみの設定が可能となります)
▂ ON：DVDオーディオ等、アンプからの音声信号を直接信号再生するとき

＊ フィルタースルースイッチ：▂ (ON)にすることで内蔵アンプのフィルターを通さず、音声信号を直接ウーファーユニットに入力し、位相回りを抑え、高S/Nに信号再生します。

レベル(dB)
▂ (ON)のとき
■ (OFF)のとき
ターンオーバー150 Hz
周波数(Hz)

⑫ **AC電源コード**
壁のACコンセントへ接続します。

使い方

1.パワースイッチ①をオンします。

- 電源を入れる時は、アンプの電源をオンしてから本機をオンしてください。電源を切るときは、本機の電源をオフしてから、アンプをオフしてください。

2. アンプを操作して音を出し、左右のスピーカーの音量を調整します。

3. レベルつまみ⑨で低音の強さを調整します。

- 必要に応じてターンオーバーつまみ⑩とフェーズスイッチ③を操作し、更にレベルつまみ⑨で調整してください。

4. 使用後はパワースイッチ①をオフします。

- パワーオンインジケーターが消灯します。

⚠ 注意

● パワーオンインジケーターが消灯している状態でも、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。旅行などで長期間この製品をご使用にならないときには、安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

仕 様

アンプ部

実用最大出力(30〜150 Hz, 10 %, 4 Ω)................200 W
入力端子
　LINE LEVEL .... 185 mV/30 kΩ
　SPEAKER LEVEL .... 1.74 V+1.74 V/15 kΩ
ターンオーバー周波数 .... 50〜150 Hz（連続可変)
位相切換.. 0 ° /180 ° (切換)

スピーカー部

形式 パッシブラジエータ方式フロアー型（低磁気漏洩設計)*
スピーカー
　ウーファー .... 25 cmコーン型
　パッシブ.. 25 cmコーン型

電源部・その他

電源 .... AC100 V、50/60 Hz
消費電力... 50 W
待機時消費電力 .... 1 W
外形寸法.... 368（幅）X 443（高）X 396.5（奥行）mm
質量 .... 18.5 kg

付属品

スピーカーコード（3 m） 2
RCAピンコード（3 m） 1
アースコード（3 m） 1
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内.. 1

- 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

＊ 低磁気漏洩設計ですので、テレビに近づけて使用しても色ズレなどが発生しにくいスピーカシステムです。

故障？　ちょっと調べてください

故障かな？....と思ったらちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。 （パワースイッチを押してもインジケーターが点灯しない。）	● 電源コードが正しく接続されていない。	● プラグを正しく接続してください。
音が出ない。 （インジケーターは緑、または赤に点灯する。）	● LEVELつまみがMIN位置になっている。 ● スピーカーコードまたはRCAピンコードの接続が正しくない、または外れている。	● LEVELつまみをゆっくり右に回してください。 ● 接続を確認し、正しく接続してください。
LEVELつまみを回しても音が大きくならない。	● スピーカーコードの極性（本機とアンプの間の接続の＋－）を逆に接続している。	● 極性＋－を確認し、正しく接続してください。
音が歪む。	● 音量が大きすぎる。 ● スピーカーコードで本機を接続した場合に、アンプの出力に余裕がなく、アンプ側で音が歪んでいる。	● LEVELつまみを左に回し、音量を下げてください。 ● アンプ側で低音の増強をしないでください。
発振（大きな音が連続的に出る）する。	● スピーカーコードで本機を接続した場合に、アンプの電源を切ったり、スピーカースイッチをオフにした。 ● 本機の音量が大きすぎる。	● アンプの電源をオンする、またはスピーカースイッチをオンしてください。 ● 本機を先にオフしてから、オフにしてください。 ● LEVELつまみを左に回し、音量を下げてください。

保証とアフターサービスについて

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
保証期間はご購入から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後８年です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談は

お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

7ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときには、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：パワード　サブウーファー
- 型番：S-W6
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問のご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

■保証期間中は：
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■保証期間が過ぎているときは：
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

- 家庭用ｵｰﾃﾞｨｵ／ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ製品のお問い合わせ窓口　**0070-800-8181-22**
- カタログのご請求窓口　**0070-800-8181-33**

＜ご注意＞
- ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。
- 修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご覧ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html

愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

⇩

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TKAZF/00G00000>　<SRA1376-A>